



モスクワ日本人学校

しらかば

第9号

モスクワ日本人学校
一人一人が輝く学校
笑顔あふれる学校

児童生徒数 90名

(E-mail)

school@mosnichi.com

(URL)

<http://www.mosnichi.com>

平和への祈り

献花式 (ヴォルゴグラード ママエフの丘)

「菊の花」と「協同的な学び」

校長 石川 賢

モスクワは花屋の多い街です。花を手にした人たちをよく見かけます。一番人気のバラ以外に、よく花束にアレンジされるのは菊の花だといいます。日本ではお祝いの花束に使われることの少ない菊が、ロシアでは色とりどりに花束を盛り上げます。

ある農業高校の先生から菊の花の構造についてお聞きしました。キク科の花は、「頭上花序(とうじょうかじよ)」といって、多数の花が一つの枝先に集まった構造になっているということです。円形に並ぶ花びらは、実は一つ一つが小花と呼ばれる花だということを知り、改めて、自然の神秘に魅せられる思いでした。

一人一人違う個性が集い、互いのよさを認め合いながら、進んで協力し学び合っていく姿は、菊花に通じるものがあります。

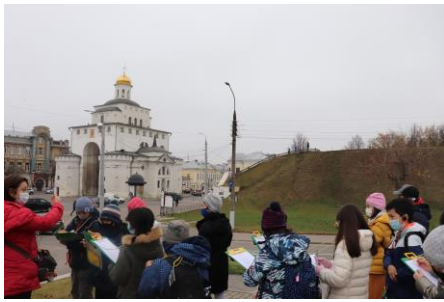
力を結集するといえば、今子ども

たちは、土曜日に予定している学習発表会の練習に余念がありません。「感謝の思いを伝えよう」「学んだことを自分たちの言葉で表現しよう」等々。正に全力投球です。

こういった体験を通して育みたいのは、「人とかかわりたい」という気持ちです。友だちと一緒に考えたり、実際に活動したりすることを通して、人とかかわることは楽しいと感じるところから「人とかかわり」が始まります。それが、子どもたちの社会性の基礎を形づくっていきます。体験を大切にするのは、そういった思いは協同的な学び体験を通してしか獲得できないものだからです。

「菊」の漢字は、散らばった米を一カ所に集めるという意で、菊の花びら(実は小花)を米に見立てたものだと思います。秋の収穫が一段落した頃に咲く花らしい名です。

豊かな体験（修学旅行）



皿の絵付けにも挑戦しました。



上：小学部（ウラジーミル・スーズダリ）
右：中学部（ヴォルゴグラード）

◆修学旅行のように答えが多様な学習は、「自分発→友だち経由→自分着」の学びの典型です。事前学習を通して興味関心を高め、実際に現地を訪れ、自分の課題をはっきりさせます。これが「自分発」の学びです。そして、友だちとの多様な学びを「経由」し、学ぶことの楽しさや新しいことに会う喜びを膨らませていきます。これが「自分着」の学びです。

◆しかし、どれだけ多くの価値を含む体験活動であっても、それは安心と安全が確保できた上でのものであって、それが無ければ何の意味も為しません。コロナ禍の中にもかかわらず、修学旅行の意義をご理解いただき、ご支援くださった保護者の皆様をはじめ、関係者各位に厚くお礼申し上げます。



地元の中学生とも交流しました。



走りきりました（マラソン大会）

◆毎朝授業前に子どもたちの健康・体力づくりの場として、「モス日エクササイズ（モスエク）タイム」を行っています。

◆その一環として、モス日第1回のマラソン大会を実施しました。低学年1km、中学年2km、高学年3km、中学部4kmに、それぞれ挑戦しました。マラソン大会を機に、子どもたちの意欲が高まっています。

◆外での活動が制限される冬期間は、運動メニューを工夫して取り組むことにしています。



1・2年生



3・4年生



中学部



5・6年生

